

チェチェン連絡会議 2013年6月の催し 「なぜシリアでチェチェン人が戦っているのか？」

講演者 常岡浩介 フリー・ジャーナリスト/当会会員

日時：2013年6月23日 17:45 開場 18:00 開始

場所：新宿区大久保地域センター会議室 B 会費 1000 円

学生（もしくはそれに準じる経済状況の方）500 円

新宿区大久保新宿区大久保 2-12-7 大久保通りにある新宿社会保険事務所の裏手です。

講演要旨

今年4月、おそらく世界で初めて、シリアの外国人義勇兵集団ムハージリーンに密着取材をした報告をいたします。これは、チェチェン人主体のグループ、しかも、第二次チェチェン戦争に敗れて、欧州へ脱出した人たちが再編成した集団です。ちょうど、タイムリーにも、米国ボストンでチェチェンの若者による爆弾事件が起きたタイミングでもありました。

現在、シリアの革命勢力には、「自由シリア軍」という、現地人による大きなグループの他、アルカーイダ系のヌスラ戦線など、欧米社会が支援したくない、いわゆる「過激派」が存在しており、過激なグループが次第に力を得ていると云われています。その「過激派」のうち、アルカーイダから「俺たちより強い最強集団」と評されているのが、チェチェン人主体の外国人集団カタイブ・ムハージリーンです。

今回、このムハージリーン本体と分派組織ジャヌード・アル・イスラムに二週間密着して、彼らの話を聞きまくってきました。注目すべき点は、彼らが「カリフ制国家建設」を最終目標としていて、これが現在のイスラム世界で巨大な潮流となっていること、さらにこれが民主主義と近代的国民国家とを全面否定しながら、国民国家の奴隷と化す民衆を解放するという、一種の解放思想として、彼ら自身が自分たちの活動を見做していることです。

欧米主要国はテロリズムへの恐怖から、彼らに強い警戒感を持っていますが、ビンラディン率いるアルカーイダが「米国の打倒」を目指していたのに対して、カリフ制主義者たちはあくまでイスラム世界内の革命を目指しており、彼ら自身の説明によると、来るべきカリフ国は、異教徒と平和裡に共存し、カリフ国内でも既存の国民国家以上に異教徒の生活や権利や尊厳が保証されるとしています。

問題点としては、彼らがイスラム教徒の中でも、異論を認めず、シーア派、スーフィなどを異教徒扱いして排撃する「サラフィ」というグループから出ていることで、このことから、欧米社会よりもむしろ、イスラム世界内部で他のグループと対立を続けるであろうと予想できることです。いずれにしても、善し悪しは別として、現在シリアで起きていることが、イスラム世界での巨大な思想潮流を象徴することには間違いがありません。